

国際資源学部

国際資源学部は、資源形成メカニズムの解明から資源探査、開発・生産を対象とした理工系分野と、資源国の政策・文化や資源経済などを対象とした人文社会系分野からなり、資源を網羅的に学ぶことができる我が国唯一の「資源学」を対象とした学部です。世界の第一線で活躍する教授陣を結集し、世界をフィールドに、資源の最先端を学びます。国内外の大学や企業、研究機関との強力な連携体制のもと、国際舞台で活躍できる資源人材を養成します。

学部の構成(1学科)

【国際資源学科】

地球規模の資源問題解決に向けて、国際的な視野をもち、実践的能力を育みます。

●資源政策コース

資源を取り巻く国際情勢や政策を理解し、関連する国際法や資源経済、資源国との契約や交渉術、その背景となる資源国の文化などについて学びます。

●資源地球科学コース

世界を対象とした資源分野の予測と新たな地球資源の可能性を探究するため、地質学、鉱床学などの最先端地球科学を基礎とした地球史をダイナミックに考察します。

●資源開発環境コース

資源・エネルギーの探査・開発、生産手法から、製錬・リサイクル技術や環境保全に至るまで、資源開発と地球環境との関わりを包括的に学びます。



カリキュラムの特色

コース	1年次	2年次	3年次	4年次
資源政策コース	〈教養教育科目〉 ○初年次ゼミ ○主観別科目 現代社会 人間と文化 科学の探求 生活と保健 地域社会 技能の活用 ○国際言語科目 ○スポーツ文化科目	資源学実習 【全学生必修】 ●資源政策論 ●国際法学 ●交渉学 ●石油資源論 ●エネルギー地政学 ●資源地域研究 ●資源動向論 ○地質図学 等	〈専門科目〉 ●国際情勢分析論 ●鉱業法 ●資源契約論 ●資源環境経済学 ●人的資源管理論 ●資源開発生産論 ●資源循環学 ●リサイクルシステム学 等	●資源プロジェクトマネジメント ●研究プロポーザル 等
科学地球コース	〈基礎教育科目〉 国際資源外交史 異文化コミュニケーション 資源開発と人権問題 基礎資源経済学 日本の国際協力 基礎数学 基礎物理学 基礎化学 基礎物理学実験 基礎化学実験	●地史学 ●石油地質学 ●鉱床学 ●金属鉱床学 ●岩石学 ●材料力学 ●地球物理学 ○資源処理工学 等	●構造地質学 ●古環境解析学 ●堆積学 ●X線結晶学 ●リモートセンシング地質学 ●防災地質学 ●物理探査学 ●岩石力学 等	●応用金属鉱床学 ●応用鉱物学 ●研究プロポーザル 等
環境開発コース		●流体力学 ●物理化学 ●石油工学 ●工業製図 ●粉体・界面工学 ●分析化学 ●地球化学 ○金属鉱床学 等	●物理探査学 ●資源探査学 ●岩盤工学 ●リサイクル・廃水処理工学 ●資源開発生産論 ●素材開発工学 ●製錬プロセス工学 ●資源環境経済学 等	●資源開発環境 文献購読 ●研究プロポーザル 等

専門科目は全て英語で履修

世界で活躍するために、英語力は必須です。国際資源学部では、1・2年次に「I-EAP」という特別なカリキュラムで集中的に英語を学びます。また、ディスカッション演習、ディベート演習によって、実際に英語で議論ができるようになることを目標に学習を進めています。こうした実践的な英語学習を経て、専門科目の講義は全て英語で行います。語学の面でも、国際的な最前線で戦える力を身に付けることができるカリキュラムを用意しています。

文理融合カリキュラム

海外で資源の開発を行う上で、その国の政治・経済状況、文化や宗教観を知っておくことは、極めて重要な意味を持っています。また、資源を扱うには、文化だけでなく、その国特有の事情や関連する法律についても知らなくてはなりません。専門科目の一部はコースを横断して履修できるカリキュラムとなっており、文系系の枠を超えて資源学を修める上で共通に求められる知識・技術を修得することができます。企業が海外での資源戦略を展開する上で、文系の人間と技術系の人間の両方が必要になり、資源開発において文理両方の視点必須となります。

海外実習必修の教育制度

3年次の後半に、全学生が海外資源フィールドワークに参加します。国際資源学部を設立するにあたって、国内の大学や企業はもちろん、海外の大学や企業からも協力をいただき、国際資源学部の120名全員が海外で1か月程度のフィールドワークを体験できるネットワークを用意しています。候補地としては、ヨーロッパや北米、モンゴルやインドネシアなど、世界各地の鉱床などがあります。運営されている鉱床そのものを見たり、それに附属する研究施設を見学したりして、実際に稼働している資源開発の現場に入ること、これから自分の取り組む研究のテーマを体験します。

I-EAP (英中大学英语)
I-EAPとは、Intensive English for Academic Purposesの略。英語力を「読む(reading)」「聞く(listening)」「書く(writing)」「話す(speaking)」「プレゼンテーション(presentation)」の5つの技能に区分し、8週間一応切りで個別技能の教育を行う集中講座。授業は全て英語で行い、技能別・目的とクラスレベルに合った教材を担当教員が選定し、少人数編成のクラスで基礎英語力を徹底的に鍛えます。

ディスカッション演習
ディベート演習
プレゼンテーション技法
実際に英語で議論ができるようになることを目標に学習を進めています。語学の面でも、国際的な最前線で戦える力を身に付けます。

国際資源クリエイティブ演習
全学生必修の海外資源フィールドワーク(鉱山・石油関連企業や商社・国際協力機関等での4週間程度の実習)の目的を理解し意義あるものにするため、事前・事後学習を設けます。

〈学部共通科目〉 ●国際関係論概論 ●地球科学概論 ●資源地域社会学概論 ●資源地質学概論 ●資源開発環境学概論 ○=必修科目

基礎 資源を学ぶ上で基礎となる知識を習得する。

発展 学部共通科目で学んだ資源の基礎的知識を基盤として、各コースの専門に関連する分野を発展的に理解する。

実践 海外における実践的な学びにより、世界の資源フィールドで活躍するための広い視野を身に付ける。専門性を高め、卒業課題研究で取り組むテーマを明確にする。